

報 告

第五十三回經濟研究会報告

六月二十八日(火) 於 經濟学部研究室

發表者 山下 博專任講師

座 長 相見志郎教授

テーマ 「ミルⅡスペンズ論争とその意義」

(出席者) 黒松、松井、宗藤、小松、中島、岩根、西川良、

岡谷、林、西村、笹田、入江、古米、辻、岡、

野間、渡辺、小林、今村、西川(宏)

一九世紀の初頭、ナポレオンによる大陸封鎖を直接の契機として、國富の増進にたいする外國商業の意義如何をめぐってたたかわされたこの論争は、いわゆる「重農主義論争」のもっとも重要な一環をなすものである。報告では、外國貿易の無用を説くスペンズと商業の有用性を説いてこれを擁護するジュームズ・ミルの所説を、それぞれの主張が背後にひそませている再生産構造の差異に注目しながら対比紹介し、この論争が古典派經濟学の確立途上において有する意義の一端を明らかにしようとした。

第五十四回經濟研究会報告

七月九日(土)

發表者 林 恒男助教授

座 長 西川良一教授

(五一八) 八〇

テーマ 「貿易・為替の自由化の背景とその基盤」

(出席者) 黒松、中西、松井、住谷、小松、今西、中島、

相見、岩根、黒田、西村、笹田、入江、古米、

岡、榎原、野間、渡辺、山下、村田、小林、

西川(宏)

日本の自由化問題は第一に、自由政策を積極的に推進しつつある日本の主体的条件と、第二に國際經濟の潮流の変化をもたらした基盤としての世界的条件との関連において、とりあげられねばならない。

この報告は右の第二の問題、すなわち西欧諸国の自由化、特に五八年の通貨交換性回復後の急テンポの自由化の展開、IMF・GATTなど國際機關の自由化要請、および米國からの対米差別撤廢の要請などを日本の自由化推進の外的要因としてとらえ、その背景である世界的条件をとりあげた。

自由化は世界の大勢であるとい一般にいわれているが、具体的にどのような諸要因を指しているのか。またそれら諸要因の性格はどのようなものであるか。西欧經濟の發展を特徴づける自由化と地域化の二つの潮流をとらえ、欧州經濟共同体(EEC)と欧州自由貿易連合体(EFTA)の動向について検討した。西欧諸國の自由化がいかなる經濟的基盤の上で行われてきたかを明らかにすることができると考えたからである。

第五十五回經濟研究会報告

九月二十七日(火) 於 經濟学部研究室

發表者 小野高治教授

座 長 今西正雄教授

テーマ 「米英における研究生活——難感

(出席者) 黒松、中西、宗藤、松井、中島、相見、岩根、

西川(良)、林、伊藤、笹田、入江、古米、辻、

岡、榊原、渡辺、山下、湯浅、小林、今村、

西川(宏)

小野教授の報告は、米英での教授の笑察の体験であり、非常に興味深いものであった。

第五十六回經濟研究会報告

十月十一日(火) 於 經濟学部研究室

發表者 伊藤史朗助教授

座 長 岩根達雄教授

テーマ 「わが国の貨幣の所得速度について」

(出席者) 黒松、中西、松井、宗藤、小松、中島、相見、

西川(良)、小野、黒田、林、入江、笹田、古米、

辻、岡、榊原、野間、渡辺、山下、湯浅、小林、

今村、西川(宏)

なお、伊藤助教授の報告に関しては、本六号三一—四六頁にその詳細が掲載されているので、興味をもたれるかたはそれを参照

されたい。

經濟学会秋季講演会

十一月十六日(水)

演 題 「最近の弱電機業界について」

講 師 早川徳次氏

經濟学会では、学生諸君の研究の一助として、毎年春秋の二回にわたり講演会を開催してきたが、本年は都合により春の講演会が延期されていたので、今回は学外より、早川電機株式会社の社長であられる早川徳次氏を招くことになったのである。西川教授の司会のもとに黒松部長の開会の辞にひきつぎ早川氏の興味ある講演が行なわれた。

戦後の日本においては工業部門の發展がすばらしく、なかでも弱電機工業において、その程度がとくに著しかったことは、われわれ周知のところであるが、氏はこれにたいして、われわれのかたよりがちな理論的分析によらず、その豊かな体験と絶えまない努力とから、貢獻されたというわけである。その話しぶりたるや聞くものすべての注意を大いにそそるものであった。氏の講演からわれわれは、つくづく大企業を氏のように成功的にやって行くためには「立派な、よきつながり」をもち、製造面においても販売面においても、つねに「社会にとって利益になるような特徴をもつ」ことが如何に重要であるか、ということを知らされたのである。最後に中西教授の開会の辞をもって盛大裡にこの講演会の幕を閉じたのである。